

科目名	言語学特殊研究	担当者	カワシマ マサヒロ 川嶋 正士	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	大学院博士後期課程における言語学の専門的な研究を行います。 本講座では、英文法の包括的な専門書を共通の基底として、言語理論について、経験科学の範疇において、様々な側面から考察することを目的としています。															
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語理論の方法論を、英語の言語事実の研究を通じ、実践的に学修することを目標とする。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の語法・意味について専門的知識を深める。</li> <li>・文を単位とした普遍的な言語理論に通底する統語的分析方法について理解できる。</li> </ul>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio を通じて、リポート課題提出の討論などの協働学習を行う。</li> <li>・manaba folio を通じて教員とインタラクティブな学習を行う。</li> <li>・manaba folio の観察記録に基づき自身の学修を振り返る。</li> <li>・図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。</li> </ul> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>教材と関連文献の学修 (15 時間) リポート課題初稿作成 (15 時間) リポート課題最終稿の完成 (15 時間) 指導教員の添削や討論を含む *学修時間はリポート課題 1 件あたりの目安時間</p>															
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リポート課題 1 締切 6 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事歴で定められた日)</li> <li>・リポート課題 2 締切 8 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事歴で定められた日)</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リポート課題 1 締切 11 月 15 日 (初稿) (最終稿提出期限 学事歴で定められた日)</li> <li>・リポート課題 2 締切 12 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事歴で定められた日)</li> </ul>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>80 %</td> <td>形式 (構成、スタイルの一貫性、引用の仕方、表現の簡素さと適切さ), 内容 (論旨展開と結論の提示の明快さ、先行研究の参照度と独創性、 課題把握の適切性) *後期のリポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 *その他のリポートは、最終稿で評価する。</td> </tr> <tr> <td>観察記録</td> <td>20 %</td> <td>討論への貢献、指導教員の添削への対応など</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート	80 %	形式 (構成、スタイルの一貫性、引用の仕方、表現の簡素さと適切さ), 内容 (論旨展開と結論の提示の明快さ、先行研究の参照度と独創性、 課題把握の適切性) *後期のリポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 *その他のリポートは、最終稿で評価する。	観察記録	20 %	討論への貢献、指導教員の添削への対応など
種別	割合	評価基準														
リポート	80 %	形式 (構成、スタイルの一貫性、引用の仕方、表現の簡素さと適切さ), 内容 (論旨展開と結論の提示の明快さ、先行研究の参照度と独創性、 課題把握の適切性) *後期のリポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 *その他のリポートは、最終稿で評価する。														
観察記録	20 %	討論への貢献、指導教員の添削への対応など														
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員のコメントや討論のフィードバックを反映し、リポートを完成させてください。</li> <li>・先行研究や引用と新規な知見は明確に区別してください。</li> <li>・書式は、APA もしくは MLA の最新のマニュアルに準じてください。</li> <li>・受講生間で積極的に情報交換や議論を行ってください。</li> </ul>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名 : Randolph Quark, Sidney Greenbaum, Geofferey Leech and Jan Svartvik 著 教材名 : <i>A Comprehensive Grammar of The English Language</i> Pierson (Paperback : 1985 年刊行のハードカバー版をお持ちの方は、再購入には及ぶません)
	使用教材は、英國で発展した伝統文法に立脚し、様々な言語理論の知見を取り入れ英文法の体系を包括的に記述した研究書です。現代英語の文法に関する専門的な知識が網羅されている良書です。指定された範囲以外も、興味を持った領域は、自主的に研究してください。
参考図書	Rondley Huddleston and Geofferey K. Pullum 著 <i>The Cambridge Grammar of the English Language</i> Cambridge University Press
履修上の ポイント	教材の第 1, 2 章は、言語研究における文法の根本に関する事なので、十分理解し、研究してください。
リポート課題 1	第 1 章の概要をまとめ、問題意識を持った個所に関して考察しなさい（伝統文法や経験科学に基づく言語理論との対比を行ってください）。 留意点：英文法を通じ、言語学における文法を理解し、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせて考察してください。
リポート課題 2	第 2 章の概要をまとめ、研究対象とする項目について理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察しなさい。（3,000 字～4,000 字） 留意点：少なくとも先行研究 1 点との対比を含めます。

基本教材 2	
教材の概要	著者名 : Randolph Quark, Sidney Greenbaum, Geofferey Leech and Jan Svartvik 著 教材名 : <i>A Comprehensive Grammar of The English Language</i> Pierson (Paperback : 1985 年刊行のハードカバー版をお持ちの方は、再購入には及ぶません)
	使用教材は、英國で発展した伝統文法に立脚し、様々な言語理論の知見を取り入れ英文法の体系を包括的に記述した研究書です。現代英語の文法に関する専門的な知識が網羅されている良書です。指定された範囲以外も、興味を持った領域は、自主的に研究してください。
参考図書	Rondley Huddleston and Geofferey K. Pullum 著 <i>The Cambridge Grammar of the English Language</i> Cambridge University Press
履修上の ポイント	教材の第 10 章は、文構造の根本に関する事なので、十分理解し、研究してください。
リポート課題 1	第 10 章 (10.1-10.33) の概要をまとめ、問題意識を持った個所に関して考察しなさい（伝統文法や経験科学に基づく言語理論との対比を行ってください）。 留意点：英文法を通じ、言語学における文法を理解し、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせて考察してください。
リポート課題 2	第 10 章 (10.34-10.70) の概要をまとめ、研究対象とする項目について理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察しなさい。（3,000 字～4,000 字） 留意点：少なくとも先行研究 1 点との対比を含めます。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の第 1 章 (1. 1-1. 18) を読み、言語研究と文法について考える
第 2 回	教材の第 1 章 (1. 19-1. 42) を読み、英語の特色や変異について考える
第 3 回	教材の第 1 章を振り返り、リポート課題 1 の構想を練る
第 4 回	教材の第 1 章のうち、問題意識を持った個所を研究し、リポート課題 1 の下書きをする
第 5 回	リポート課題 1 の初稿を執筆する
第 6 回	リポート課題 1 の初稿を推敲し、提出する
第 7 回	教材の第 2 章 (2. 1-2. 24) を読み、文の要素と節構造について考える
第 8 回	教材の第 2 章 (2. 25-2. 62) を読み、句、語類、文の基本様式について考える
第 9 回	リポート課題 1 の添削指導をもとに最終稿を作成する
第 10 回	教材の第 2 章を振り返り、リポート 2 の構想を練る
第 11 回	教材の第 2 章のうち、問題意識を持った個所を研究し、リポート課題 2 について下書きする
第 12 回	リポート課題 2 の初稿を執筆する
第 13 回	リポート課題 2 の初稿を推敲し、提出する
第 14 回	第 1 章から第 2 章でリポート課題 1 と 2 について参照し、考察した個所を振り返る
第 15 回	リポート課題 2 の添削指導をもとに最終稿を作成し、提出する

### 基本教材 2

第 1 回	教材の第 10 章 (10. 1-10. 17) を読み、節とその機能について考える
第 2 回	教材の第 10 章 (10. 18-10. 33) を読み、節の意味役割について考える
第 3 回	教材の第 10 章 (10. 1-10. 33) を振り返り、問題意識を持った個所を研究する
第 4 回	教材の第 10 章 (10. 1-10. 33) を範囲とし、リポート課題 1 の下書きをする
第 5 回	リポート課題 1 の初稿を執筆する
第 6 回	リポート課題 1 の初稿を推敲し、提出する
第 7 回	教材の第 10 章 (10. 34-10. 45) を読み、主語と動詞の一一致について考える
第 8 回	教材の第 10 章 (10. 46-10. 53) を読み、一致全般や意味制限について考える
第 9 回	リポート課題 1 の添削指導をもとに最終稿を作成する
第 10 回	教材の第 10 章 (10. 54-10. 70) を読み、各動詞の特徴について考える
第 11 回	教材の第 10 章 (10. 34-10. 70) のうち、問題意識を持った個所を研究し、リポート課題 2 の下書きをする
第 12 回	リポート課題 2 の初稿を執筆する
第 13 回	リポート課題 2 の初稿を推敲し、提出する
第 14 回	第 10 章でリポート課題 1 と 2 について参照し、考察した個所を振り返る
第 15 回	リポート課題 2 の添削指導をもとに最終稿を作成し、提出する